

一 賛成。

二 可能。朗讀も二種あると思ひます。

一口読みの詩。

句讀を明瞭に意義の傳達を中心として、感情を捉へられぬやうにする讀み方。この場合音の伴奏は不一の。

2 文法讀みの詩。

多少の朗唱（吟詠）讀をまぬが小あいせう。音の伴奏はやはり考へるもの。

三 創作はその場合ありませぬは分りません。

畫が讀むとすば上田敏先生の尺ヤ小  
古マラルメの詩「白鳥」を音の伴奏  
ありやります。畫自身の内作では朗  
文法讀では「採擷の蝶」口讀では  
「丘」「大阪一九〇〇年」等。

右の通りなりとけりませう

一日千一ある

竹友共撰

南に三るり

兵庫縣武庫郡甲東村仁川

竹友 藻風

東京

前田鐵之助

1000

中日黒四丁日一四八〇

河井 醉茗

昭和十一年一月十七日

大塚市... 吉川則比古